

よくあるご質問
(日経平均トータルリターン・インデックスに
ついて)

株式会社 日本経済新聞社

日経平均トータルリターン・インデックス

■ 新聞に出ている日経平均トータルリターンとは何ですか

正式名称は「日経平均トータルリターン・インデックス」で、日経平均株価（日経平均）を構成する 225 銘柄の値動きだけでなく、各構成銘柄の配当も加味した場合のパフォーマンスを示す指数です。2012 年 12 月 3 日から 1 日 1 回終値ベースで公表を開始しました。過去分も 1979 年 12 月 28 日の値を 6569.47（同日の日経平均の終値と同じ）とし、日次ベースで遡及計算しています。

■ 配当を加味するとはどういうことですか

日経平均の計算においては、構成銘柄の配当落ち分を考慮していません。それに対して、日経平均トータルリターンの計算は、日経平均の終値に日経平均の配当落ち分を足した数値で前日からの変化率を計算し、当日の値を算出しています。構成銘柄から得られる配当を、日経平均の構成に沿って配当落ち日の終値で再投資した場合の収益を指数化することになります。

■ なぜ予想配当を用いて計算するのですか

投資資産評価において配当落ち日に配当を計上するのが一般的です。しかし、日本では通常、配当落ち日時点で配当の額が確定していません。そこで、配当落ち日時点では予想配当を用い、実際に支払われる配当と差額があれば、配当確定日の翌営業日に差分を調整します。配当確定日は「日経平均・配当指数」と同日（期末配当は定時株主総会日、期末以外の配当は決算発表日）です。予想配当は日経の予想配当を用います。

■ この指数の値は何を意味しているのですか

1979 年末から配当を再投資して日経平均に連動する運用をした場合のパフォーマンスを示します。2 つの時点の指数値から騰落率を計算すると、その期間の日経平均の配当込み騰落率が計算でき、日経平均の騰落率と比較すると配当再投資によるパフォーマンス押し上げ効果がわかります。

■ 配当落ち日以外の変化率は日経平均と同じですか

原則、前日値との変化率は日経平均と同じですが、配当落ち日と予想配当と確定配当の差分を調整する日（配当確定日の翌営業日）は、日経平均の変化率と異なります。

■ 銘柄入替により除外された銘柄の配当はどうなりますか

配当落ち日時点で日経平均構成銘柄であれば、指数への反映対象となります。配当落ち日時点で上場廃止などで除外された銘柄は対象になりません。配当落ち日時点で採用銘柄で、以降に除外された場合、予想配当と確定配当に差分があればその調整値を指数に反映します。

■ 配当落ち日に新規採用された銘柄の配当はどうなりますか

配当落ち日時時点で、日経平均構成銘柄となっていますので、指数への反映対象となります。

■ 過去のデータは入手できますか

本サイト「日経平均プロフィール」の日経平均トータルリターン・インデックスのページ、または「日経の指数」ページのダウンロードセンターで、日次データ 3 年分、月次データ 10 年分を取得できます(無料)。また 1979 年末からの指数値、個別銘柄や指数ベースの配当状況など、指数値をトレースできるデータを、本サイトの有料ページで提供しています。

■ この指数に連動した金融商品はありますか。どういうときに利用するのですか

現時点ではありません。日経平均に連動した投信や ETF などは、通常日経平均の構成銘柄を一定数保有しているため、配当による収益が発生します。一方で、日経平均の値動き自体は、配当による収益が加味されていないため、日経平均自体と比較すると、配当の収益の分だけ（分配金を含めた）パフォーマンスに差が生じることとなります。こうした場合に、配当の収益を加味した日経平均トータルリターンを利用することで、パフォーマンスの比較をより正確に行なうことが出来るようになります。